

里地里山保全再生モデル事業（神奈川県秦野地域）
試行事業に向けた意見交換会（上地区）議事概要

日時 平成17年6月28日(火)19:00～
場所 上公民館 和室

参集者

里地里山保全団体
四十八瀬川自然村
柳川生き物の里
生産組合
上秦野共有林(欠)
森林組合
農業委員
上地区自治会連合会
農協理事
農協上支所長
西財産区
自治会長（出7、欠2）

生物の里について

- ・ 今の試行事業の提案は初めて聞く話。
柳川生き物の里は3年前から動いている。大切なのは保全活動で、今は草刈を年に2, 3回しているが、ソフトが重要。生物多様性の調査をわれわれは独自でしている。今すばらしい提案がさらさらと書かれていたが、それを全てするのは大変だ。今年は東海大学の先生の働きで、上小学校と契約して3年間、生き物調査することになった。外来種の影響も含めて調査する。それを今は無償でもらっている。そんなことが続くかどうか。草刈も、作業者にお茶1本準備されるがそれだけだ。ハード面もソフト面も、いつまで続くのか、疑問。そのバックアップ体制をどのようにしてくれるのか、その辺を検討したい。
- ・ 【市】柳川の生物の里は、3年前に第1号として指定した。年数回、草刈をして頂いているが、地権者に、謝礼を1haあたり12円お支払いしている。管理については、地元まちづくり委員会に、謝礼として年間5万円、市として出している。
先週の日曜日も小学生対象に観察会をした。本町等の小学生が40名ほど参加したが非常に良かったという感想だった。
今後の管理については、草刈りの方法など具体的な管理方法を専門家に聞きながら、どのような方法がいいのか、この事業の中で検討していきたい。いずれにしても町づくり委員会の方の協力が必要なので、今後ともお願いしたい。
- ・ 【事務局】佐渡の場合は、新潟大学の農林学部が授業の一部として学生が泊り込み、地域と結びついて地域に貢献するような研究をしている。福井でも大学の研究室が、地区の農家に提案してモデル圃場として休耕田を借り、湿地を復元し調査している。地域の大学と連携しながら調査を進める方法はよくある。
それに予算が着くかという問題は、大学の方が予算を持って取り組むのが通常だ。ただし、自治体や地元側で特別に調査を願いたい場合は行政が予算をかけることもある。
神奈川県城山町では25年間、高校の先生が生徒とともにトンボ調査をしている。先生の研究の一環として実施している。上地区での調査を通じて研究成果があがれば、お互いのパートナーシップが構築できる。
- ・ 一番初めの調査の結果では、あそこには特異な生物がいなかった。めだまがない。あそこの生物多様性は里山林があるから維持されているということだと思う。ゲンゴロウの専門の先生などがいれば、いいフィールドになるが...
- ・ 以前、東海大の佐々木先生には何度も来ていただいて、データもいただいた。しかし、データを持っていくだけで、その先、どういう管理をしたら良いかは示してくれない。守山先生にアドバイスもらおうという提案があるが 守山先生は遠かったら（フォローのために何度も来るのは）大変ですよ。

- ・（守山先生に見てもらい管理方法を教えてもらうとすると）守山先生がいったことをやるのは、結局自分たち。こういう調査をしたら良いと言いつつ残されても、自分たちだけではそんなことできない。東海大は研究して自分たちのデータにしているからよいが我々にはフィードバックがない。

仕組みづくりについて

- ・ こういう会合は何回開かれても、竹田さんが戻ったらまた元に戻る。きちんと動き出す仕組み作りをして頂かないと困る。我々は、わずか9300㎡の生き物の里に取り組んでいる。四十八瀬川周辺の保全という事実もある。そういった今ある活動を拡充していこうということが重要。提案してもらってもよいが、戻った後に地元で担当する人を、行政マンでもいいが派遣してもらって、一緒に話し合っ詰めていくようにしないと進展しない。
- ・ 【市】既にいろんな地区で説明したが、環境省は予算はないと言っている。つくのは研修など。秦野市がこれまで取り組んできたことも含めて評価され、モデル事業実施地に指定された。皆さんの取り組みとしては、国が新しい制度作り、上地区にいろんな方が来、ボランティアが活動するようになると受け皿が必要。その受け皿を行政と皆さんと一緒に作るというのが基本。生き物の里については、市の方ではっきり管理方法の指導はできないので、守山先生にその場で見て頂いて指導頂ければ、というお願いをしている。その点については環境省に介入してもらえる。「何するから金をくれ」というのは、国ではなく市に言って欲しい。その上で市から国と相談する。既存のメニューで摘要できそうなものがあれば、環境省に他省庁を調整してもらって予算をもらうことになる。あとは市と皆さんが組織作りをして、どういう方をリーダーにしていくかとか、研修制度、募集システムを作る、というようなことになる。

実践フィールドについて

- ・ 実施するフィールドは地区の内部で決めるのか。
【事務局】それが前提だと思う。地権者の無視はできない。今をベースにして管理方法を聞く方法もあれば、やる場所の管理方法をきくか。また外との交流をどうするかというのも検討課題。
- ・ 第2東名自動車道のことも考えないと、折角やったのに潰されるなんてこともある。
【市】その点は事前に情報提供する。
- ・ 地区内にフィールドはあるが、地元とボランティアの調整をだれが付けてくれるのか。
【事務局】最初は、プロ化したボランティアを集める。リーダーは森林組合など。ボランティアが入る段階では市が仲介する。

鳥獣対策（鹿柵周辺の草刈り）について

- ・ 有害鳥獣対策で金網が張っているが、その周りが荒れている。地主に了解を得て試行的に防護柵に沿って10mくらい管理し、効果があれば全体の里山がそんな状態なので拡張してはどうか。そこを研修の場として進めてもらいたい。生産組合としてもお願いしたい。柵は1.6kmくらいだが、やる必要があるのは500～600メートル。ただし傾斜は急で、20度くらいから40度くらいある。倒木の整理、竹、アオキなど雑木も切って草刈をしないと山は綺麗にならない。現状では防護策の内側が鹿の繁殖地になっている。猪と鹿とハクビシンの養殖地のような。地権者から生産森林組合に許可は出ている。しかし人手が足りない。そこでこの事業で人手を借りて試行的に行っていきたい。
- ・ 鹿柵の続きには、孟宗竹が1町歩くらいどんどん繁殖し、畑や雑木林に入っている。

- ・【市】ヒルの防除は薬を撒けば簡単だが、地下水に影響がでる。防除の仕事をするのは土地所有者になる。しかし、やらないから増えて益々入れなくなるという悪循環。それを断ち切らないといけない。そういうのをボランティアに入ってもらい取り組むことがモデル事業の目玉になる。金をかけて檻を作っても限度がある。市と農林業者と地権者とボランティアが一緒になって取り組まないと、目的は達成できない。昔のようにクズかきなどをして山を綺麗にするとヒルも減る。そういうことを上地区が先行してもよい。そうしたら情報発信もできる。
- ・【事務局】それをモデル事業として、フィールドリーダー研修の一環として行いたい。地権者とプロでまず行って、少しづつ外の人を入れて進めることを検討したい。
- ・伐採木は野積みで堆肥にしてしまうところへ集めればよい。道路はそばにおいて出すというのは大変なので、鹿柵管理用に集積場所を設ける。草刈り機、鉋、鎌、鋸などの研修の場には良いと思う。

保全作業のモデルデータ収集について

- ・市内の4地域の中で上地区が一番まとまっている。自給自足ができて、周辺に昔ながらの生活形態がある。昔と同じような管理をするには今、どれくらいの手が必要か、そういう数字などを示してもらうなど、モデルになるところを一緒にやれたらいいのではないか。
ボランティアでは一年かかっても少ししかできないが、皆さんと一緒にできたら進むと思う。皆で一緒に取り組んでその数字をデータとして示し、発信していけたら、モデルとしてよいと思う。何人の人手が必要か、というのも、この試行の中で明らかにして情報発信できれば良いと思う。今はそういうデータがない。それができればモデルになると思う。

それはやらなければならないという意思があるから取り組めること。まず里山を提供してくれる人を探し、それに都市の人の力を借りる。何が優先かを明確にすべき。

小野さんのアイデアは良いと思う。……・・

竹林整備について

- ・竹林の整備もいいのか。込み合って大変だ。ボランティアがやってくれるならして欲しい。
- ・【事務局】竹林は3年たつと元に戻る。やって元気になるような、結果がつくところが良いのではないか。山なら一度すると何年かもつ。または、交流の仕組み、直売、子どもたちが体験するなど、地域の活力につながる所をしてはどうか。
- ・一度綺麗にしてもらったら翌年から出てくる筍をただで提供する形はどうか。一度、番傘させるくらいに整理して、後は筍掘ってもらってよい。
- ・自分でやった面積は、手をいれたら入れた分だけ、その部分の筍は自分の分にするとか。地権者との結びつきとして、手入れの仕方などをリーダーにお願いすれば良いのではないか。
- ・【事務局】手入れをした後、地権者との間でどういう関係を作れるのかを確認できたら、後は仕掛けていけばよい。地権者との仕組みーただで貸すのか、地権者自身が筍を取るのか、指導をするとか...。上地区として、竹林を所有している人は一律の条件で開放するようにする。ボランティアが入ったらこういう条件で開放していく、ということが決まれば、開放できる。個々の地権者が個別の条件で開放すると、いつの間にかゴミが捨てられたりする。そうならないように、行政などが間に入って安心できるルールをつくる方が良い。
- ・土地をどう解放するか、外から来た人をどう受け入れるか。皆が了解している状況を作るとただ来てやって帰っていくということは少なくなる。個々人で始めるのではなく、皆の合意が取れて、一番困っているところから始めるのが良いと思う。

荒廃農地等管理の緩和について

- ・ 荒廃農地は農地にしないと補助金が下りないが、もう藪になっているような所は畑でなくて林にしてもいいとか、そういう緩和をして幅を広げてくれればいいと思う。畑に戻さなくても、手入れすればそれなりの林になる。それも許容してもらえば少しは進むと思う。

【事務局】耕作放棄地の管理については、農業経営基盤強化促進法と特定農地貸付法が一部改正され、市町村と農業員会が作る組織が耕作放棄地を強制的に耕作してもらうか、団体に貸して耕作させることができるようになった。実際には、地域の問題として耕作放棄地の対策を考えていくように、ということだが、農林水産省ではそのような耕作放棄地対策を進めようとしている。

継続の仕組み、メリットの還元について

- ・ 地権者は、収入に繋がらないなら放っておけばいいという考え。整備しても収入にならないならどうでもいい。そのままでもいいという考えの人が多い。きれいにするだけなら了解は得られるだろうが、実際には、メリットがないなら放っておけばよいという考えの人が多い。農地の貸付にしても、10aあたりいくらか貰えるなら貸すけれど、そうでないなら放っておけばいいという人が多い。労力もないのに動物の餌作っても仕方がない。それに、知らない人に貸すと、何かと面倒なことになるので、やはり放っておいた方がいい、となる。放棄地に罰金がかかるというような条例でもできれば変わると思う。
- ・ 【事務局】地権者と作業する人のメリットの問題は難しい。どこかで回るような仕組みにしないといけない。都会の考えとしては体験料をとるなどのパターンをつくる。プロにきてもらおうと気遣、昼食を出すとか。
- ・ 【事務局】例えば、体験料を毎年2000円でとり、その代わり筍を何キロまで採ってよいとか、そういう仕組みを考えて作っていくことは出来ると思う。
- ・ 地権者も作業者も、どこかプラスにしていけないと続かない。両者に還元する方法を考えないと長続きしない。一年や2年で終わってしまう。集落で出来ないから都市の人を呼ぼうということでしょ。自分たちでできないから、地域に里地里山整備計画を作ってもらおう。そうでないと貸し借りのときに問題でてる。
- ・ 地域で取り組むグループで土地を貸してもらってそこに籍をおいてもらって、地権者とちょっと離れて任せてもらって、ここなら金になるとか、そういうシステム作りも面白い。やる気とやる気のない人を組み合わせたら進むと思う。
- ・ 竹林の場合は例えば、管理もしてもらって筍を採ってもらおうが、地代はそのグループからだしてもらおう。契約は5年とか短い期間でやる。そこを管理したら筍を掘る権利はもらえるが地代ははらう。オーナー制のようなもの。キロ数より面積でやった方がいいと思う。

体制/組織づくり、進め方について

- ・ 【市】有害鳥獣や町おこしなど、色々な問題が出ているが、地区の課題について小ブロックに分けることが出来る。それらを町づくり委員会で総括してもらおう。各ブロックで専門的に研究する委員会を作ってもらって市では担当課が対応する。そういう進め方が出来るのではないかな。
- ・ 一箇所で試しにやってみて、うまくいけば翌年仕組みを作る。そのようなモデルのモデルを考えて、始めたらよいのではないかな。

<ul style="list-style-type: none"> ・ こういう議論は際限がない。この仕事は地元で自主的にやるしか手がないというイメージ。生き物の里に委員会をつくったのと同様に、里地里山上委員会をつくって議論して煮詰めえるのはどうか。この場では結論も出ないで解散になる。結局、我々地元がやらなければ進まない。里地里山上委員会を作り、その上で煮詰める。段取りはどうするか、市に頼むこと。竹田さんに頼むこと・・・。そこまではないと進まないのでは。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿柵まわり、生物の里、というふうに別々に集めて話をつめ町づくり委員合いで総括する。それが効率的。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 町づくり委員会ま大きな意味の町づくりなので、「里地里山管理委員会」のようなもので総括することで良いと思う。市の直轄事業の枠組みの中でプロジェクトができたらい。その原案づくりをここで提案してもらおうと良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【事務局】グループに分かれると2年間くらい話し合いをするということがよくある。もしよければ、一つ一つの意見を試しとしてやってみてはどうか。最初から責任を多きくせず試しにやってみて振り返りながら進めるということでしょうか、。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年間も議論してて纏まらないのは総花的にアドバルンをあげるから。これだけをしようということでは話し合えば2年間もかからないでしょ。絞るまでが時間がかかる。だから焦点を絞ろう。そうすれば分かれて話し合っても進む。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 有害鳥獣の方は緊急だ、2年も待ってられない。後押しする支援隊をいろんなグループから来てもらうシステムを作って欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【市】有害鳥獣が最優先、次に生き物の里、次に竹林、というふうに次々プロジェクトが出てくる。議論に時間をかけるより、出来るところから取り組んでいったほうがよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区でやるべきことを考えるのが基本。自分たちで出来ないことをボランティアにしてもらおうという考えでは長続きしない、自分たちがやるという発送で、足りない部分だけ何人かに来てもらう、という考えで進めるのが良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 里地里山は本来、地域の生活圏の中。地域の清水をとる、農業をする。それが出来なくなったから行政やNPO法人の手を借りて行うという認識。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣害対策をまず進める。地権者と相談する。 生物の里の管理方法を、守山先生を呼んで考える。 竹林の整備。 その3点でよければ市と日程調整をして試行的にはじめていきたい。 <p style="padding-left: 40px;">市のほうで、それぞれのプロジェクトで関係者を集めるリーダーになってほしいとお邪魔するので、お願いしたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小委員会をつくって進めるのがよいと思うが、2年もたつと役員が代わって元に戻る。前任者が決めたことなんてやる気がないということになりかねないので、継続性をもたせるために、今担当になったら、役職の任期がきても里地里山の取組については引き続き担当してもらおうというのはいかがでしょうか。 <p style="padding-left: 40px;">難しい 新任者がノータッチでも困る。とりあえず組織がないと困る 担当者が変わったら代わらないといけないと思う。組織の仕事として引き継いだほうが良い。</p>